

令和7年度第3回足立区環境審議会資料（審議事項2関連）

別紙2－②

第四次環境基本計画施策群及び指標（案）

柱1 地球温暖化対策（脱炭素化の推進） ※ 1-1、1-2 は CO₂削減目標設定年度である 2035 年度目標も設定

施策群		目標	指標設定
1-1 省エネルギーの推進			
成果指標	省エネルギーを心がけている区民の割合	目標値は次回の審議会で示します。	現行計画（活動）、世論調査、重点プロジェクト区民の意識の変化を成果とし、取組とのつながりを確認する（現行計画課題・専門部会）。
活動指標	助成制度による省エネ支援件数 （省エネリフォーム補助金、電気自動車等購入費補助金、集合住宅・事業所等LED照明設置費補助金）	目標値は次回の審議会で示します。	現行計画 既存住宅の断熱等省エネ促進策（専門部会）

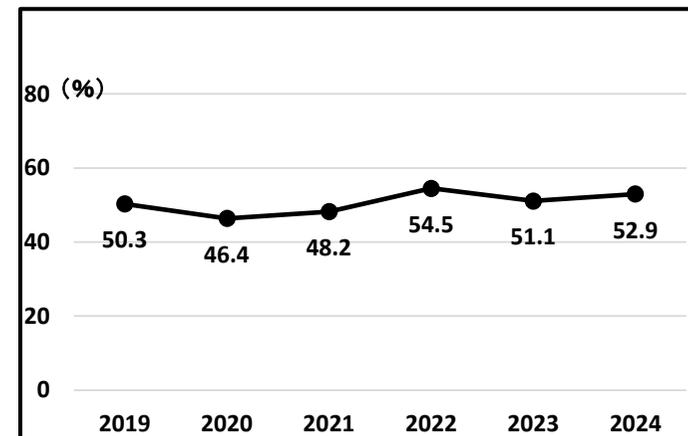
成果指標「省エネルギーを心がけている区民の割合」

（参考）現行計画 2024 年度目標 70%

2030 年度目標 75%

人の意識や行動を変えることは難しい（専門部会意見）。

効果的な啓発・行動変容誘導策を展開し、省エネルギーへの意識向上と行動につなげていくことを反映した目標値として設定する。



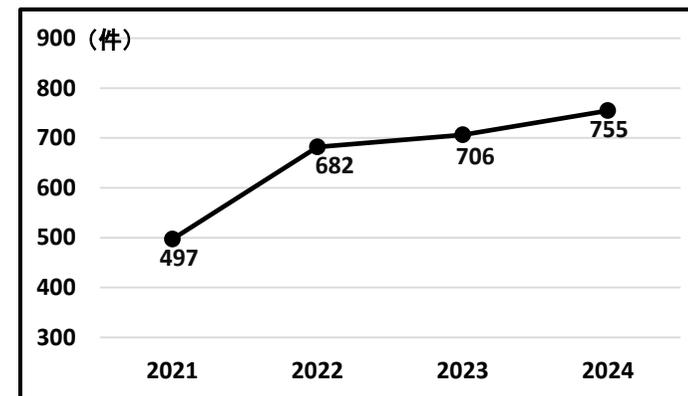
活動指標「助成制度による省エネ支援件数」

（参考）現行計画 2024 年度目標 410 件

活動指標は現行計画の指標を引き続き使用する。

現行計画の目標を既に大きく上回っていることから、現状の取組状況や実績を基に目標値を設定する。

LED は 2027 年度の「蛍光灯製造・輸出入禁止」により移行が進むことが見込まれるため、最終的には 0 件になる想定で目標値を設定する。

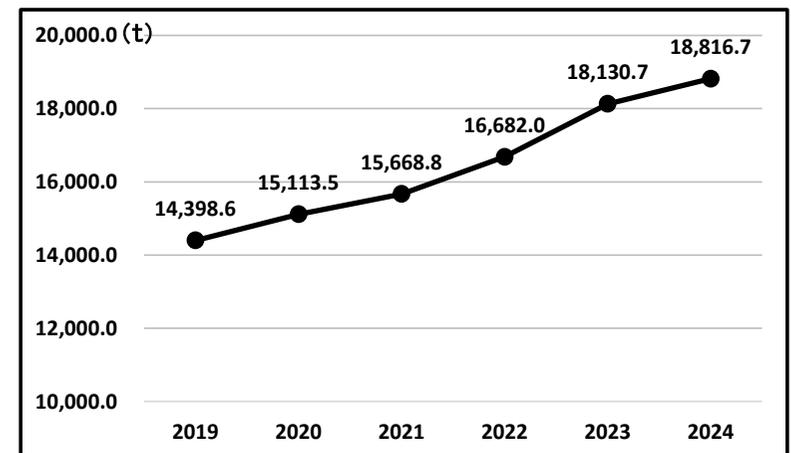


施策群		目標	指標設定
1-2 再生可能エネルギーの利用拡大			
成果指標	区内の太陽光発電設備導入による二酸化炭素削減量	2032年度 28,500t 2035年度 30,000t	新規 区の特徴を活かした施策として再生可能エネルギーの中でも太陽光に絞り指標とする（専門部会）。
活動指標	区の助成による年間の太陽光発電導入量	目標値は次回の審議会で示します。	現行計画、重点プロジェクト、脱炭素ロードマップ

成果指標「区内の太陽光発電設備導入による二酸化炭素排出削減効果量」
(FIT、FIP 認定分のみ)

現行計画は再生可能エネルギー全体だが、区の特徴を活かした脱炭素施策として導入拡大に注力する太陽光発電に絞り指標とする。

区内における太陽光発電設備の導入容量をこれまでの実績の推移から推計し、東京ソーラー屋根台帳（東京都）の年間予測発電量の推定及び太陽光発電システムの年間予測CO₂削減量の推定に基づき算出した。



活動指標「区の助成による年間の太陽光発電導入量」

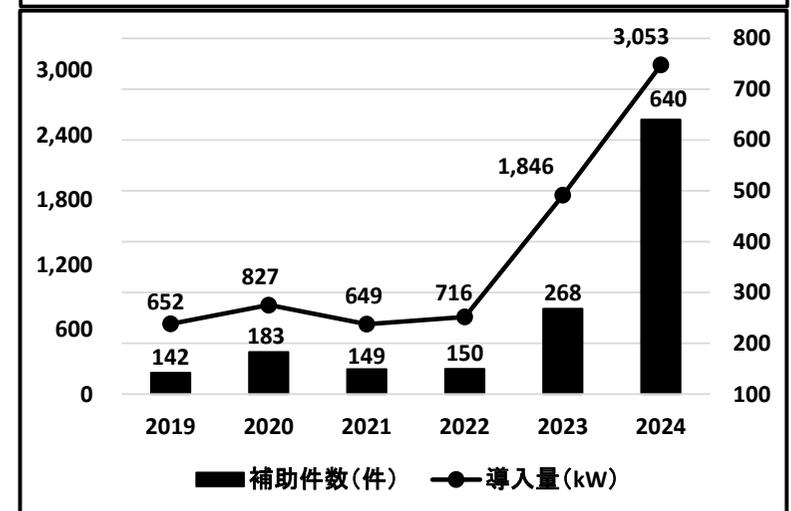
活動指標は現行計画の指標を引き続き使用する。

(参考) 現行計画 2024年度目標 850kW

2030年度目標 1,000kW

脱炭素ロードマップの重点事業として区が取組を強化したことにより、目標値を大幅に超える実績となっている。

直近の実績の推移を踏まえ新たな目標値を設定する。



施策群		目標	指標設定
1-3 気候変動による被害の回避・軽減			
成果指標	熱中症対策を行っている人の割合	初回の世論調査結果確認後に設定	新規、世論調査（世論調査新規掲載予定） 「適応」に対する区民の意識や啓発による行動の変化を確認する（専門部会）。
活動指標	熱中症対策講座受講者数	2032年度 7,300人	現行計画（対象事業見直し）

成果指標「熱中症対策を行っている人の割合」

熱中症対策に関する区民の意識を見るための世論調査質問項目を新設する方向で調整中。

目標値は初回の調査結果を見て決定する。

活動指標「熱中症対策講座受講者数」

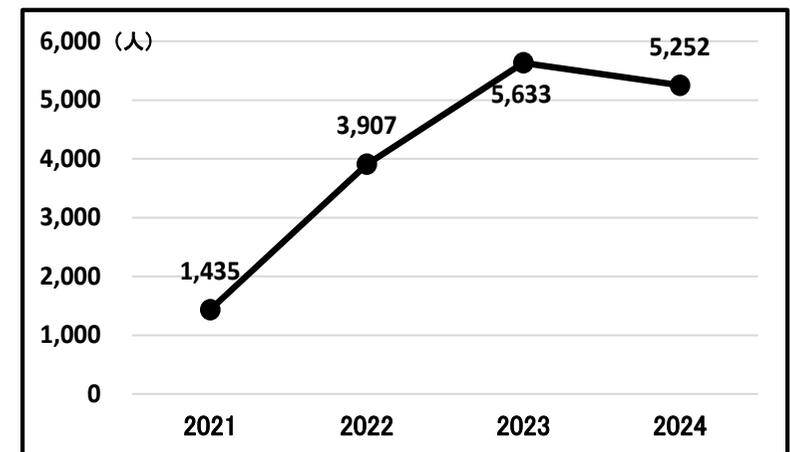
活動指標は現行計画の指標を引き続き使用する。

（参考）現行計画 2024年度目標 800人

（2024年度実績内訳）

- ア （主に）高齢者 3,814人
各住区センターの「涼を得るイベント」内で実施
センターに来てもらい涼んでもらうことを目的としている。
- イ 小学生 1,438人
緑のカーテン、気候変動、気象予報士の3講座

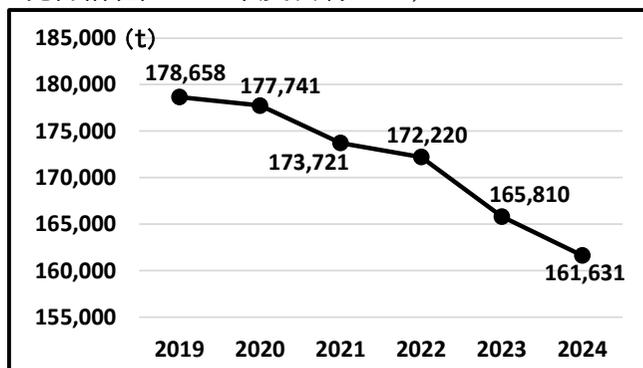
新計画では「熱中症対策講座受講者数」の対象を既存の小学校出前講座と住区センターで実施する講座に加え、一般講座向け講座（気象予報士による講座）、シルバー人材センター会員向け研修会を加えた参加者数の合計とする。



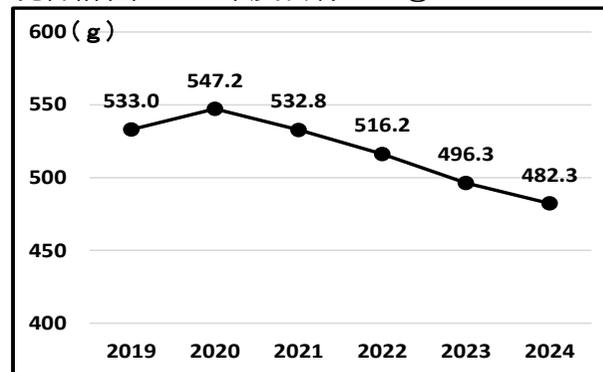
柱2 ごみの減量と循環型社会の構築

施策群		目標	指標設定
2-1 ごみの減量			
成果指標	区内の年間ごみ量（区収集+事業系持込ごみ）（低減）	一般廃棄物処理基本計画策定で目標値を設定します。	現行計画（活動）、足立区基本計画、重点プロジェクト
活動指標	区民一人1日あたりの家庭ごみ排出量（低減）		現行計画、足立区基本計画、重点プロジェクト 区民がイメージしやすい指標として設定 人口増減の影響を受けにくい
	区内事業者向け廃棄物管理責任者講習会受講率	2032年度 85.0%	新規、脱炭素ロードマップ 事業者向けの取組に関する指標として設定

成果指標「区内のごみ量（低減）」
（参考）現行計画 2024年度目標 158,400t



活動指標「区民一人1日あたりの家庭ごみ排出量（低減）」
（参考）現行計画 2024年度目標 470g



活動指標「区内事業者向け廃棄物管理責任者講習会受講率」（新規）

区が選任を義務付けている事業用大規模建築物（延べ床面積1,000㎡以上）の廃棄物管理責任者に対して、必要な知識の習得を推進するための講習会を実施している（対象は新任者及び前年度までに講習会を受講していない廃棄物管理責任者）。

廃棄物管理責任者全体に占める受講済の責任者の割合（受講率）活動指標とし、事業者の廃棄物減量及び適正処理を促進する。

目標値は実績の推移から設定した。

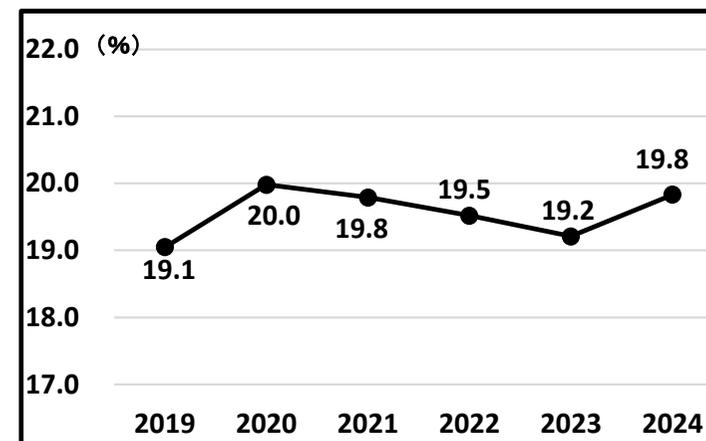
施策群		目標	指標設定
2-2 持続可能な資源利用への転換			
成果指標	資源化率（資源化量÷廃棄物総量） 廃棄物…家庭ごみ排出量、資源行政回収、 集団回収 ※ 事業系持込ごみは含まない	一般廃棄物処理基本計画策定で目標値を設定します。	現行計画、重点プロジェクト
活動指標	資源化量（資源行政回収量、燃やさないごみ資源化量、粗大ごみ資源化量、集団回収量の合計）		新規 資源化した全体量の変化を見る
活動指標	区民一人1日あたりの資源回収量（資源行政回収量、集団回収量の合計）÷人口		新規、足立区基本計画 資源化を「自分ごと化」して取り組んでいることを見るための指標（専門部会）。ごみではなく資源として出している分だけを分母として算出する。

成果指標「資源化率」実績推移

（参考）現行計画 2024 年度目標 21.5%

成果指標は現行計画の指標を引き続き使用する。

実績が 19～20%の間で推移しているが、プラスチック分別回収実施により資源化率が向上することが見込まれる。それを踏まえ新たな目標を設定した。



活動指標「資源化量」

「区民一人1日あたりの資源回収量」

資源化の全体量（区の出組を加えた数値）と、区民の分別による資源化量の変化を見るための指標として新規で設定した。

柱3 自然環境・生物多様性の保全

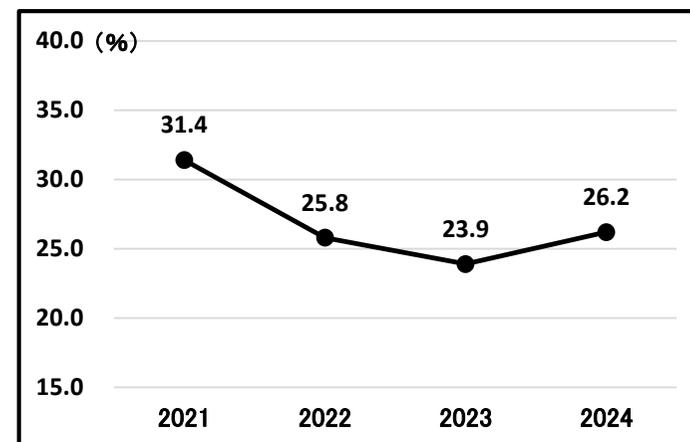
施策群		目標	指標設定
3-1 自然や生物多様性に対する理解の促進			
成果指標	自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合	2032年度 48.0%	現行計画、 <u>世論調査</u> 、足立区基本計画、重点プロジェクト 区民の意識の変化を成果とし、取り組みとのつながりを確認する（現行計画課題・専門部会）。
活動指標	自然や生きものとふれあう事業の参加者数	2032年度 198,750人	現行計画

成果指標「自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合」

（参考）現行計画 2024年度目標 40.0%

実績は減少傾向ではあるが、子どもの自然体験の機会の充実や講座による学びで「自分ごと化」するなど、専門部会でいただいた意見を反映させた啓発により、意識の向上を図っていくことを踏まえた目標値として設定した。

また、足立区基本計画の目標との整合も取っている。



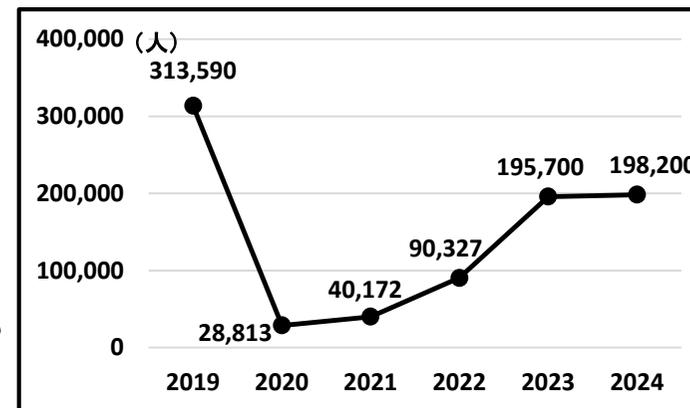
活動指標「自然や生きものとふれあう事業の参加者数」

（参考）現行計画 2024年度目標 310,240人

新型コロナウイルス感染対策での施設の休業等により実績が大幅減となったが、その後回復傾向にある。

コロナ後のイベントの実施内容や対象人数の見直し等を考慮した目標値の設定としている。

対象：生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ、環境部主催の事業（あだち生きもの図鑑をつくろう！、あだちの水辺調査隊、セミの羽化観察会、あらかわボートクルーズ、あらかわ自然体験ウォークラリー、環境学習ツアー）



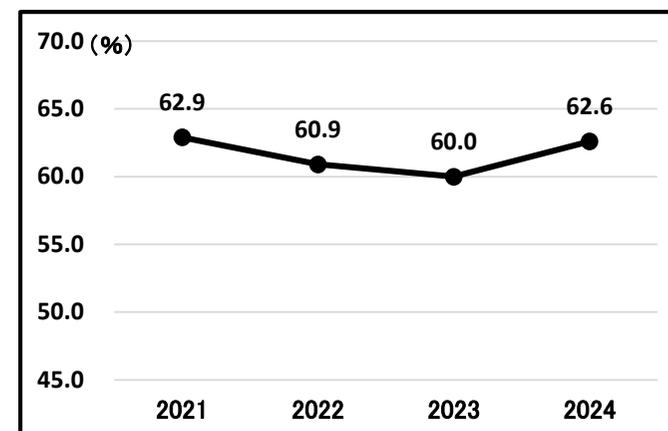
施策群		目標	指標設定
3-2 自然環境の保全と創出			
成果指標	まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合	2032年度 68.4%	現行計画、世論調査、足立区基本計画、緑の基本計画
活動指標	緑豊かな景観形成に取り組む区民・団体	2029年度 1,467 (団体 820、個人 647)	現行計画、緑の基本計画 2029年度：緑の基本計画の目標年度 (緑の基本計画の改定時に目標値を再設定する)
備考	3-2 に二酸化炭素の吸収の考え方を含む		

成果指標「まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合」

(参考) 現行計画 2024年度目標 64.4%

世論調査の設問。

足立区基本計画の2032年度目標と整合を取り68.4%に設定した。



活動指標「緑豊かな景観形成に取り組む区民・団体」

(参考) 現行計画 2024年度目標 1,312 (団体 767、個人 545)

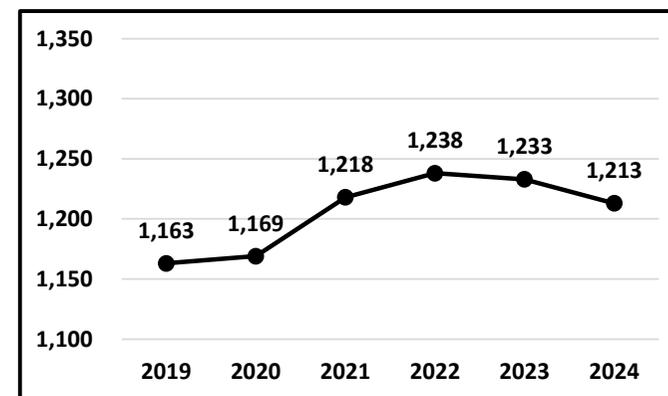
対象

団体：公園等の自主管理（清掃・花壇）、緑の協定、
花のあるまちかど事業協力団体、花いっぱいコンクール参加団体など

個人：保存樹木・樹木の所有者管理者、農業ボランティア養成講座修了者、
ビューティフルガーデン認定者

足立区緑の基本計画の最終目標（2029年度）と整合を取り設定した。

緑の基本計画改定に合わせ目標年度、目標値を更新予定。



柱4 良好な生活環境づくりの推進

施策群		目標		指標設定
4-1 生活環境の保全と公害対策の推進				
成果 指標	工場・指定作業場の苦情相談件数（低減） 指定作業場…東京都の環境確保条例で定められた工場ではないが、公害発生のおそれがある事業場	2032年度	60件	新規、足立区基本計画 現行計画の公害苦情件数のうち工場・指定作業場に絞った数値
活動 指標	立入調査の実施件数	2032年度	300件	新規 工場・指定作業場への立ち入り検査数

成果指標「工場・指定作業場の苦情相談件数（低減）」（新規）

活動指標「立入調査の実施件数」（新規）

工場・指定作業場は認可申請、設置届等が必要で、その際に公害規制に関する指導を行っている。

現行計画の指標である「公害苦情の相談件数」では、区が事前に指導等対応を行うことが困難な建設現場等に関する苦情、相談（区の取組と関係なく発生する）が多くを占めていた。このため、新計画では、工場・指定作業場に対象を絞り成果指標、活動指標を新たに設定した。

（参考）対象となる工場・指定作業場数

条例による認可工場数 令和6年度 2,954

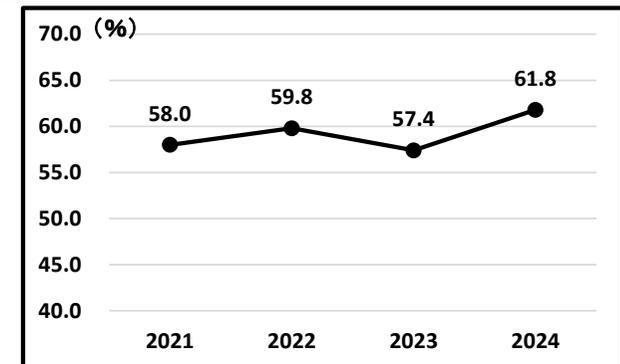
条例による指定作業場数 令和6年度 1,053

施策群		目標	指標設定
4-2 快適で美しいまちづくり			
成果指標	ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合	2032年度 65.0%	現行計画、 <u>世論調査</u> 、重点プロジェクト（旧） 区民の意識の変化を成果とし、取り組みとのつながりを確認する（現行計画課題・専門部会）。
活動指標	ごみゼロ地域清掃活動の参加者数	2032年度 80,000人	現行計画
	不法投棄・落書き防止啓発活動数	2032年度 100回	<u>新規</u> 、重点プロジェクト（旧） 成果指標である街の美化につなげるため注力している不法投棄・落書き防止に関する啓発活動数を活動指標とした。

成果指標「ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合」

（参考）現行計画 2024年度目標 50.0%

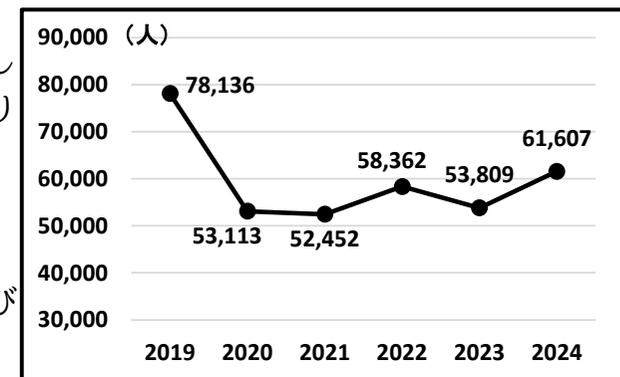
世論調査の結果を指標としている。現行計画では50%を目標としていたが、ビューティフル・ウィンドウズ運動の認知度や不法投棄の防止に関する啓発活動の効果により実績が目標値を上回ったことなどを踏まえ、新たな目標値を設定した。



活動指標「ごみゼロ地域清掃活動の参加者数」

（参考）現行計画 2024年度目標 80,000人

新型コロナウイルス感染拡大の影響で実績が減少し、現状、コロナ前の水準には回復していない。しかし、継続して参加している地域の団体等も多く、今後も周知強化等により参加者拡大を図ることなどを踏まえ、2032年度の目標値を再び80,000人に設定した。



活動指標「不法投棄・落書き防止啓発活動数」（新規）

不法投棄や落書きに対しては早期の発見、対応が重要となるため、区民への通報を呼びかけ、安心・安全で「美しいまち」の実現につなげる啓発活動を指標とした。

柱5 意識の向上と行動変容のしくみづくり【分野横断的な位置付け】

施策群		目標	指標設定
5-1 環境意識の啓発と行動する人材の育成			
成果指標	日頃から環境への影響を考慮して具体的に行動している区民の割合	目標値は次回の審議会で示します。	現行計画、世論調査、重点プロジェクト 区民の意識の変化を成果とし、取り組みとのつながりを確認する（現行計画課題・専門部会）。
活動指標	小・中学校環境学習出前講座受講者数	2032年度 7,350人	新規、重点プロジェクト（旧） 環境意識の醸成には、子ども時代からの環境教育が重要である（専門部会）ことから、小・中学校への出前講座の受講者数を活動指標とした。
	環境に関する情報発信回数	2032年度 1,100回	現行計画
	自主的な環境保全活動数	2032年度 11,000回	現行計画（対象見直し） 環境マスターの活動を対象に加えた。
備考	分野横断的な施策群として意識啓発や環境学習等柱1～4の成果にもつながる施策を示していく。		

成果指標「日頃から環境への影響を考慮して具体的に行動している区民の割合」

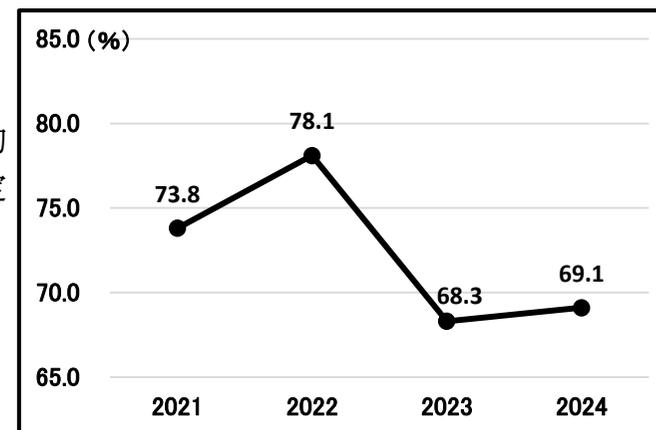
（参考）現行計画 2024年度目標 80.0%

現行計画実績の推移に加え、世論調査の質問内容を「環境への影響を考えた具体的な行動」の事例をわかりやすく示し見直すことの影響を考慮し、新たな目標値を設定していく。

活動指標「小・中学校環境学習出前講座受講者数」（新規）

区内の小・中学校を対象として、地球温暖化や気候変動などの環境問題をテーマとした講座を出前方式で実施している。小・中学生の環境への関心を高め、子どもたちの環境意識の啓発につながる取り組みであることから、新規指標として設定した。

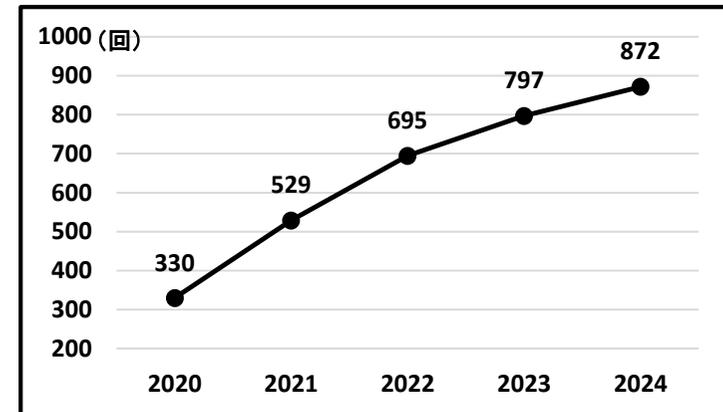
（参考）2024年度受講者数（延べ人数）6,632人



活動指標「環境に関する情報発信回数」

（参考）現行計画 2024 年度目標 420 回

取組の強化により実績が目標を大きく上回った。新たな計画では情報発信は意識啓発・行動変容の誘導策の重要なテーマとなっていることを踏まえ目標値を設定した。



活動指標「自主的な環境保全活動数」

（参考）現行計画 2024 年度目標 1,400 回

指標は現行計画から継続となるが、柱を横断する施策群の指標となるよう対象事業を増やし新たな目標値を設定した。

（既存の対象事業）

フードシェアリングサービスのレスキュー数、野鳥モニター（活動への延べ参加者数）、

（追加する対象活動）

環境マイスターの活動数（環境かるた大会、A-Festa 環境マイスターブース運営の延べ参加者数）

